

1 これまでの取組みについて

1

(1) 消防団長から市長への要望書提出(令和3年6月)

昨今の社会情勢や人口減少に伴い、消防団の担い手の確保に苦慮しており、将来にわたり安定した地域防災力の要として、健全に組織が維持できるよう、協議を要望

- 団員の活動実態に合わせた適正な規模
- 大規模災害団員制度の創設

- 報酬等を含めた処遇改善について

(2) 令和3年度の検討(令和4年度施行)

持続可能な消防団組織の構築(消防団が検討)

- 定員数3,150人(基本団員3,050人機能別団員100人)
 - ・地域実情に応じた定員数(改正前3,430人)
- 最大3年間の休団制度を創設
- 「大規模災害団員制度」を導入
 - ・災害時のみ活動する機能別団員として制度化、OB等経験者を中心に構成
 - ・平日昼間等、基本団員不在時の補完体制として、定年70歳とする。
- 若年層の加入促進のため、「学生消防団活動認証制度」を導入
- 負担軽減のため、ポンプ操法や年末警戒等の実施方法を見直し

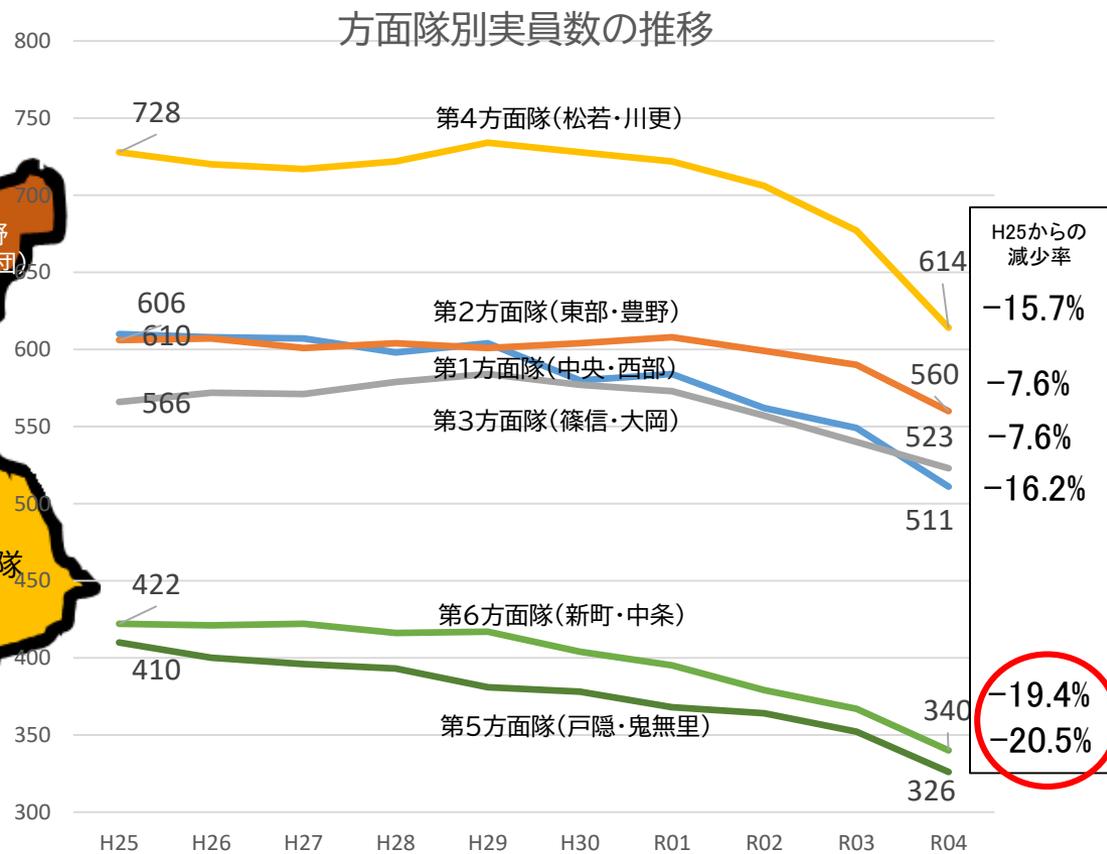
処遇改善(市が検討)

- 年額報酬、出勤報酬を国の標準額へ増額
 - ・団員階級19,000円→36,500円
 - ・出勤報酬1回2,000円→日額8,000円
- 個人への直接支給(個人口座へ振込)
- 直接支給に伴い、分団運営費を見直し、団員数に応じた団員割支給分を増額

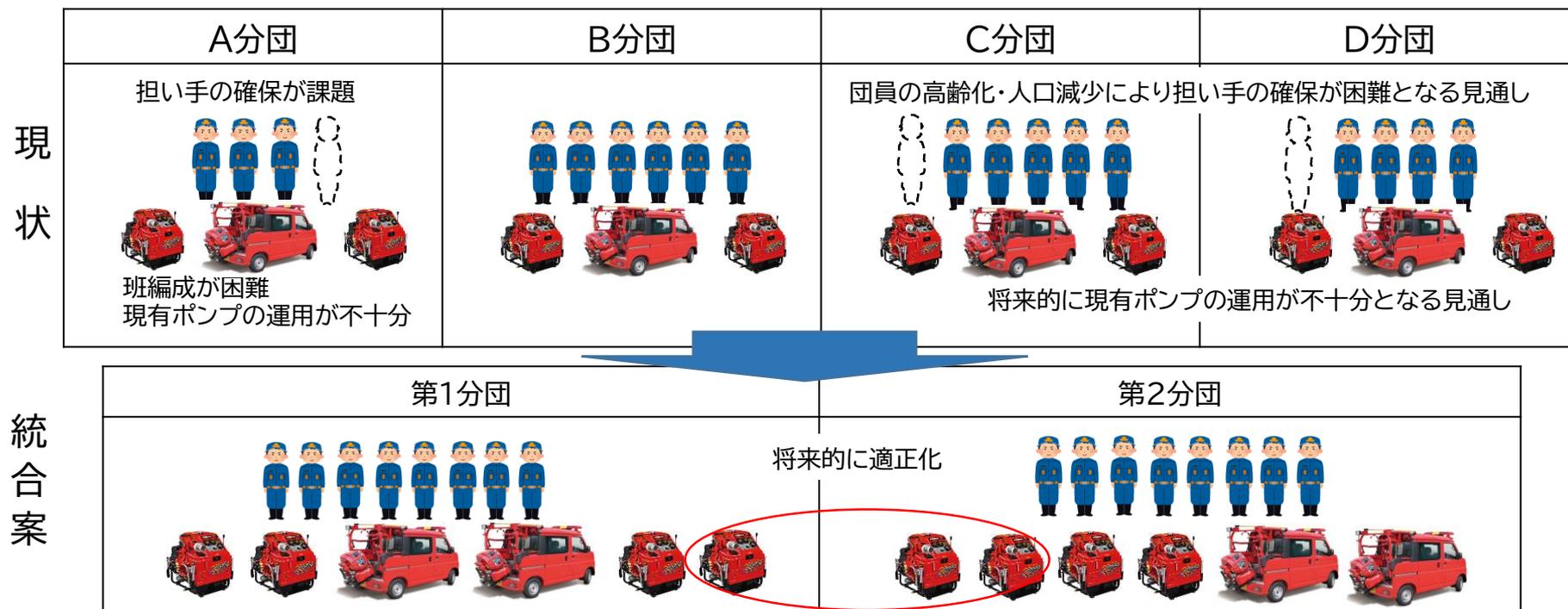
(1) 検討の背景

- 第5方面隊(戸隠・鬼無里)・第6方面隊(信州新町・中条)の団員減少率大きい。
- 平成22年合併時から変更が無い中、団員の減少により、班編成や可搬ポンプの運用が困難な地域がある。
- 消防団が考える組織定員の見直しの方向性は、活動実態に合わせた適正規模としている。

担い手減少や高齢化等を踏まえ、人員動員力、機動力確保のため分団統合を検討



- 地域と十分協議の上、統合案をまとめる。
- 分団内の連携や署との連携を考慮し、現行の方面隊ブロック内において分団統合を実施
 - 従来からブロック単位で訓練行事等を実施しているため、指揮一元化により横の連携強化
- 地域性や将来の団員確保等を考慮した適正規模とする。
 - 団員の手薄な地域をカバーするため、統合により人員動員力を確保
 - 部・班編成と担当地域を見直し、管轄エリア拡大による負担増や団員有無の不均衡等を解消、機動力を確保
- 将来的に消防施設(詰所・ポンプ等)の適正化を計画
 - 統合後の効率的なポンプ運用の確立や団員減少等を踏まえ適正化を計画



人員動員力・機動力の確保 施設資機材の効率化を図る。

4 分団統合について

全体74分団→63分団

4

	分団名	平成25年実員	令和4年実員	実員減少率
戸隠ブロック	戸隠第1分団	41	41	0.0%
	戸隠第2分団	30	23	-23.3%
	戸隠第3分団	25	23	-8.0%
	戸隠第4分団	24	23	-4.2%
	戸隠第5分団	41	35	-14.6%
	戸隠第6分団	33	24	-27.3%
	戸隠第7分団	30	18	-40.0%
	戸隠第8分団	48	33	-31.3%

新分団名称	実員(見込み)	部
戸隠第1分団	58	第1部
		第2部
戸隠第2分団	74	第3部
		第4部
		第5部
戸隠第3分団	60	第6部
		第7部
		第8部

鬼無里ブロック	上里分団	26	20	-23.1%
	鬼無里中央第1分団	55	46	-16.4%
	鬼無里中央第2分団	32	24	-25.0%
	両京分団	25	16	-36.0%

鬼無里第1分団	66	第1部
		第2部
鬼無里第2分団	38	第1部
		第2部

中条ブロック	中条日高分団	41	38	-7.3%
	中条日下野分団	27	21	-22.2%
	中条分団	38	32	-15.7%
	中条御山里分団	27	25	-7.4%
	中条住良木分団	52	35	-32.7%

中条分団	118	日高部
		日下野部
		中条部
		御山里部
		住良木部

令和5年3月規則改正(分団名称変更)→令和5年4月新体制開始